



幻想的な光で川面を彩った精霊流し
—志布志市の前川

精霊流し 幻想的

志布志

志布志市の前川で22
日夜、精霊流しがあつ

た。初盆を迎えた家族らが精霊舟や灯籠を流し、故人の霊を送り出した。

旧暦7月16日の盆行事として、同市の大慈寺が大正初期から現在の形で開いている。尺八を吹く虚無僧を先頭に、初盆を迎えた約40家族が4隻の精霊舟を運び、大慈寺から宝満寺跡までの約1・5キロを行列。ちようちんで

飾り付けした精霊舟と120個の灯籠を川に流すと、水面に幻想的な光が広がった。

大慈寺の石田恵一住職(59)は「先祖だけでなく、肉や魚、植物など命を頂いている万物への感謝の念を新たにする行事。命の尊さを見つめ直す機会として、いつまでも続けたい」と話した。